

くしろ地域生活支援センター

にじい路

令和元年 7月 22日発行 第2号



発行：北海道社会福祉事業団 くしろ地域生活支援センター

〒088-0625

釧路町東陽大通西 1-1-1 釧路町保健福祉センターあいぱーる 2階

TEL：(0154) 40-5551 / FAX：(0154) 40-1302

E-Mail：kushiroshien@dofukuji.or.jp

施設長挨拶

『新しい時代にむけて』



くしろ地域生活支援センター 所長：北島正紀

今年度も早いもので3ヶ月が経過しました。

この間、5月1日に元号が平成から令和となり、世間の注目を集め、改元にともなう10連休と何かしら話題の多い年度となりました。私自身、昭和、平成、令和と3世代を生きるという貴重な経験をさせていただくこととなり、感慨深いものがあると同時に、まだまだ若いと思っていましたが、随分歳をとってしまったなあと実感する今日この頃です。新しい時代となり、気持ちを新たにこの令和の時代を精一杯楽しんでいきたいと思っています。

さて、話は変わりますが、くしろ地域生活支援センターでは、昨年度から新規グループホームの開設を検討してきました。諸事情により延び延びとなっていました。4月1日にグループホーム「すてら」を釧路市内に無事開設することができました。センターとしては4番目のホームとなりますが、これまでのホームとは違い、アパート型のホームとなっています。これまで以上に個人のプライバシーが尊重される形となっています。各部屋にはIHの簡易調理器具、エアコン、トイレとは別々の浴室等快適な生活が送れるよう配慮されており、食事は別室の世話人室で提供しています。日中活動事業所や一般就労事業所との連携を強化し、少しでも自立が促されるよう支援していきたいと考えています。なお、見学は随時可能ですのでセンター職員までお問い合わせください。

児童発達支援事業については特に大きな動きはありません。昨年度の報酬単価の変更で放課後等デイサービス事業の単価が若干引き下げられましたが、サービスの低下に繋がらないようこれまで以上に努力していきたいと考えています。また、昨年度釧路町児童発達支援センターで家族の会を立ち上げることができました。利用者やご家族の方にとって各事業所が身近な存在となれるよう一層努力していきたいと思えます。

最後になりますが、今年度は白糠学園から地域支援部門を移管し、くしろ地域生活支援センターが開設され、5年目の節目の年を迎えました。まだまだ課題は山積されていますが、これからも一歩ずつ前に進んでいきたいと思っています。これまでセンターを支えてくれた、利用者、ご家族、関係機関の皆様、そして一緒に頑張ってきてくれたセンターの職員に心から感謝申し上げます。今後もよろしくお願いいたします。



くしろセンター 事業所（事業）紹介



障害者地域活動支援センター 「ほっと」

ほっとでは月1回月曜日、国道をはさんで向かい側にあるトライアルに、買い物に出かけています。車で行く人、歩いて行く人それぞれです。買う物は、お弁当やカップ麺・パンなどお昼に食べるもの、ペットボトルの飲料やヨーグルトなどのおやつ、家で使う食材や日用品など様々です。中にはペットの亀の餌を買う人も。日常買い物になかなか行けない人も多く、みなさんとても楽しみにしています。また、外出として動物園にも出掛けました。



（事業所長 山根 敏彦）

グループホーム（あけぼの・わかば・りやん・すてら）

平成31年4月、釧路市星が浦に通勤支援型のグループホーム「すてら」を開設しました。建物は、釧路町にある3ホームとは異なるアパートタイプの造りになっており、より一層のプライベートな住空間の提供が可能になっています。

7戸ある部屋は、オール電化で、お手入れが楽で安全なIHクッキングヒーターと冷暖房用のエアコンが付いています。夜間支援従事者の配置はありませんが、1階の1室には世話人室があり、利用者さんへの朝と晩の食事を提供する場所になっています。必要に応じ、支援員が通院や買い物への同行、健康や金銭面への助言などを行い、就労しながら地域で生き生きと生活していくための手助けをしていきます。



以下、「すてら」に入居されている利用者さんの感想です。

<40代男性：釧路町のグループホームより移動>

「すてら」に移って、通勤時間が短くなって良かった。今までは、風呂や食事などで他の人に気を使うことが多かったけれど、今は一人なので気楽に過ごせる。

<10代男性：学校を卒業後、グループホームへ入居>

家では兄弟がいて一人になれる空間がなかったので、グループホームに入り自分1人の空間があるのは、とても嬉しい。家から離れて慣れないことが沢山ある中、身の回りのことを自分でやらなくてはならなくなったのは大変。だけど、将来は一人暮らしをしたいという目標があるから、職員には頼らずにできるところは自分でやりたいと思い、頑張っている。

（支援員 藤山 希美）



釧路町児童発達支援センター 「のびっと」

釧路町児童発達支援センターのびっとでは、長時間クラスに通園している児童を対象に、お誕生会と参観日を毎月実施しています。お誕生会ではホールに集まり、ハッピーバースデーの歌を唄ってお祝いし、お誕生日カードをプレゼントとして渡しています。また、のびっとで過ごしている様子の写真をスライドショーで観たり、その月によっては子どもの日や七夕などの行事も一緒に行い、製作活動や記念撮影、おやつを食べたりと保護者と一緒に参加しています。



夏の親子レクリエーションでは、遊具や大きな砂場のある子ども遊学館へ行きました。スコップなどの道具を使い大きな穴を掘ったり、シャボン玉の中に入れるコーナーやボールプールなどの様々な遊びを体験しています。冬のイベントでは、クリスマス会を行い、サンタクロースから一人ひとりがプレゼントをもらったり、皆でケーキを食べたりと大盛り上がりでした。

前年度より、新しい行事としてのびっと夏祭りを開催しました。雨天でも決行できるように室内で行い、くじ引きやヨーヨーすくい、スライム釣り、玉入れなどのゲームや小麦粉風船作りの体験型のブースを設定したり、言語聴覚士や理学療法士による子どもの発達に関する掲示物、災害時には避難場所になっている屋上の見学会などの様々な催しを行いました。特に盛り上がっていたのはお菓子まきで、皆真剣な表情でお菓子をキャッチしたり、拾い集めたりと笑顔で楽しそうに参加する子ども達でした。

今後もお子さんや保護者の方々が一緒に楽しめる活動をしていきたいと思っています。

（指導員 鎌田 雅樹）



キッズセンター くしろ



平成31年4月より新年度の受け入れを開始いたしました。今年度は新たに20名ほどの新規利用のお子さんを迎え、継続利用のお子さんと合わせ、約40名ほど（2歳から5歳まで）のお子さんにご利用いただいています。

半数が新規ご利用のお子さんでスタートしましたが、5月には早々に10日間という長い連休があり、バタバタとあっという間に数か月が過ぎたように感じています。キッズセンターくしろでは、新しくお子さんの受け入れをするときに、そのお子さんが現在どんなことを分かっているのか、どのような理解の仕方をするのか、また好きなおもちゃや遊び、興味のあることは・・・など、お子さんの特性に気づくことを重要としています。発達につまづきがあってもなくても、私たちが安心して活動したり生活していくためには、自分に合った方法で情報を得ることや、活動の予測が立つこと、見通しが持てるということが必要です。キッズセンターでもお子さんたちが安心して活動できるように、活動を行う環境設定や人的な環境（理解をするということ）を整え、一人一人の特性に合わせた関わり方やサポートが出来るよう工夫して取り組んでいます。また、保護者の方と情報を共有して、一緒により良いサポートの有り方を見つけるように努めています。今後ともよろしくお願い致します。

（保育士 佐々木 聡美）



厚岸町子ども発達支援センター



夏と冬の2回、外出行事を行っています。幼児は夏に大きな公園へ遠足に行く予定でしたが、雨のため遊学館に行きました。色々なコーナーを体験し、たくさん体を動かして楽しんでいました。学童は、公共交通機関のマナーや金銭用途や支払い方の学習を含めた外出を行っています。冬休みには、今年初めてボーリングに行っています。初めて体験する児童もいて、ボールの重さに驚いている様子でした。上手に転がすことが難しいお友達も補助具を使いながら楽しんで行っていて、帰りの車の中では「楽しかった」や「また来年も行きたい」などの声が聞かれていました。また、クリスマスにはサンタさんがプレゼントのお菓子を持って遊びに来てくれました。みんなで写真を撮ったり、サンタさんとお話しをしたりして楽しんでいました。お菓子をもらった子どもたちは、お返しにサンタの手遊びをしました。

（指導員 田嶋 宏美）



白糠町子ども発達支援センター

当センターでは、冬休みの恒例で釧路や阿寒のスキー場へ行きソリ滑りの外出行事を行っています。なかなか上手に滑ることのできない友だちを見て、「おれが紐持って一緒に滑ってやるから！」と、友だちを助けてあげるなど、子ども同士のやりとりの中で声を掛け合う場面が見られました。普段の活動の中でも、自分の気持ちや要求を少しずつ伝えられるようになったことや、諦めずに最後まで取り組めるようになったことなど、子ども達が成長していく姿を見るのが楽しく、そして嬉しく感じます。

これからも子どもたちの成長に寄り添っていければ良いなと感じます。

（指導員 高藤 巧）



医療専門職紹介

当センターの医療専門職は、言語聴覚士・公認心理師（臨床心理士）・理学療法士の3名が配置されています。それぞれの専門的領域は、言語聴覚士は発音・嚥下・コミュニケーション・対人関係などを担当し、公認心理師は発達全般の育ち（コミュニケーション、対人関係、身辺自立）、情緒の育ち、学習や社会的行動などを担当しますが、言語聴覚士と公認心理師の領域は重なる部分があります。また、理学療法士は歩行・粗大運動・姿勢・装具調整などを担当しています。主に18歳までの児童を対象としておりますが、幼児・小学生が中心です。業務先として事業団内部の療育機関（児童発達支援事業所、放課後等デイサービスセンター）と契約している釧路根室管内市町村から依頼を受け、児童発達支援事業所・保育機関・学校機関などへ出向いています。そこでは、地域で生活する児童の発達の確認と、保護者・関係者の悩みや実施されている対応について確認の上助言をしたり、医療機関や福祉機関などのご紹介もしております。道東の医療機関や福祉機関は限られており、場合によっては道央や道北の医療機関との連携も行います。

できるだけ、それぞれのお子さんの発達特性、ご家庭の事情、地域の資源事情を考慮しながら具体的な対応を心がけておりますが、地域も広く頻繁に支援ができないため、継続的に地域で支援をしていかれる各市町村の児童発達支援事業や役場の職員の方々によるサポート体制についても、地域の事情に合わせながら一緒に検討しています。

人事異動のお知らせ

<31年3月 広域異動・転出>

高瀬 憲一（だて地域生活支援センターへ）

高橋 真希（事務局へ）

新村 正（定着支援センター札幌センターへ）

今江 礼央奈（太陽の園へ）

<31年3月 退職>

武藤 光史（保育士）・深井 美羽（保育士）

早川 浩美（准職員）

人事異動のお知らせ

<31年4月 広域異動・着任>

尾野 孝宏（太陽の園より）

石川 生馬（白糠学園より）

<31年4月 採用>

中井 みか（言語聴覚士） 小林 嵩明（支援員）

秋田 友里亜（准職員） 俣野 柚奈（准職員）

南谷 恵千子（准職員） 外崎 かすみ（准職員）

竹崎 矢素夫（パート）

<令和元年5月>

佐々木 由香里（看護師）

30年度 利用実績

成人施設	登録数	年間延べ利用数
ほっと	35人	2,978人
グループホーム（わかば）	6人	2,061人
グループホーム（あけぼの）	7人	2,233人
グループホーム（りやん）	6人	1,920人
児童施設	登録数	年間延べ利用数
釧路町児童発達支援センター	59人	6,308人
キッズセンターくしろ	37人	2,144人
厚岸町子ども発達支援センター	59人	2,077人
白糠町子ども発達支援センター	42人	1,620人
相談	登録数	年間延べ相談数
あーかす	177人	1,962件
にじ	100人	764件

編集後記

梅雨と夏の合間の気候の変化が大きい季節となりました。季節の移り変わりの変化を感じながら、元気に過ごしたいものですね。

さて、今年度最初の機関紙をお届けします。たくさんの方々のおかげによって、今号も無事に発行することができました。私も含めちょっと張り切り過ぎてしまい、誌面にどの写真を掲載するか、選定にすごく苦労しました。皆様に楽しんでいただけるよう、1年間頑張りますので、これからも宜しくお願い申し上げます。（Y）